

## 〔巻頭言〕

## 会長就任にあたって

平成 13 年度会長 長野 靖 尚<sup>†</sup>

日本流体力学会は、今大きな変革を迎えています。平成 11 年度会長木村龍治先生、12 年度会長村上周三先生のご英断で、学会の運営と在り方に大きな梃子入れがなされました。これまでの当学会の台所は結構厳しく、会誌「ながれ」や「FDR」の発刊に工夫を施したり、講習会を開いたりして財政基盤強化に歴代の理事・評議員の方々のご努力されてきました。このような努力は今後も必要です。しかし、公益法人としての学会の使命は、学術的な活動力とそれから生まれる社会への影響力にあります。小さい世界での仲良しグループではないはずで、当学会は、会誌での CD-ROM 論文の発行、ホームページへの最新学術情報の掲載、インターネットによる「FDR」の全世界への公開の検討など正に IT 革命を他学会に先んじて行いつつあります。

しかし、改革は緒についたばかりです。外を見ると、例えば大学はこれまでにない過酷な改革が求められています。企業ではリストラが進み、世界規模での大型の再編成が進んでいます。大学も同様で、大学は滅多なことでは崩壊するものではないと言う神話が崩れつつあります。理由は色々ありますが、最も現実的な問題は大学入学者の基礎となる 18 歳人口の大幅な減少です。しかし、学生を奪い合う競争に躍起となり、無節操なバーゲンセール的行為だけは絶対に避けないと、企業共々日本沈没となるでしょう。

このような危機感の中で、大学審議会も文部科学省へ「21 世紀の大学像と今後の改革方策について——競争的環境の中で個性が輝く大学——」と言う答申書を提出しました。この答申書に沿っ



平成 13 年度会長 長野靖尚

た改革が、今始まりつつあります。しかし、21 世紀はこれまでよりも一層流動的で複雑化し、地球規模での協調が求められる中で国際競争力を強化すると言う相反する条件を満たさなければなりません。その為には、知識の量だけではなく、広い視野から「知」を捉え直せ、即ち「知の再構築」を図れと言っています。このようなことを、日本全国ホモジニアスにやるのは到底無理です。ではどうするか？ 大学を、教養教育の提供を重視する大学、最先端の研究を志向する大学、専門的職業能力の育成に力点を置く大学、等々その役割によってグループ化せよとのこと。その為には、大学間の融合も避けられないでしょう。同じような理念でこれまで教育・研究をしてきた者が、「個性が輝く大学」を目指して抜本的改革を考えろと言われても、自ずと限界があると思います。類似の理念を持った大学は、適切に融合することを真剣に模索する時期に既に来ているような気がしてなりません。

同様の弊害は、日本の学会にも出ています。流体力学と熱工学に関するものでも、機械学会、建築学会、土木学会、化学工学会、航空宇宙学会、流

<sup>†</sup> E-mail: nagano@heat.mech.nitech.ac.jp

体力学会、数値流体力学会、伝熱学会、冷凍空調学会、空気調和・衛生工学会、熱物性学会、燃焼学会、混相流学会、などすごく多くの学会が関与しています。そして、それぞれの学会が「輝く個性」を求めています。しかし、狭い日本で人材を求めるのですから、当然、同一人物が複数の学会で類似の仕事をするることになります。重複する学会の仕事に追われ、本来の創造的な研究活動すら制約されることもあり得ます。ヨーロッパの熱・流体科学は、欧州研究共同体である ERCOFTAC (The European Research Community on Flow, Turbulence and Combustion) の下で強気に連携しています。大学でも、流体と熱の研究を同じグループで行うのは当たり前のことです。島国の日本では、「輝く個性」を協調し過ぎると、何をとって

も「個性化」→「セクショナリズム」となることが危惧されてなりません。大学も学会も、もっと融合を目指すべきと思われます。企業同様、国際的競争力を高めるにはマスの大きさとポテンシャルの高さが求められます。

幸い、日本流体力学会は学際的な学会です。副会長の吉澤徹教授は物理学がご専門ですし、理事会には工学や理学がご専門の先生と企業の方々にバランスよく入って頂いております。石塚事務局長は土木学会の元事務局長で、学会事務の大ベテランです。会員の皆様のご協力を頂ければ、必ずや上述の難題もクリアできると信じています。先ず、今期の流体力学会年会が大きく様変わりします。ご期待下さい。

## 2001年度理事・監事

会 長	長野 靖尚	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
副会長	吉澤 徹	東京大学生産技術研究所教授
理 事	植田 洋匡	京都大学防災研究所教授
理 事	大屋 裕二	九州大学応用力学研究所教授
理 事	斎藤 隆雄	(株)大林組技術研究所副所長
理 事	久保田弘敏	東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻教授
理 事	高木 正平	文部科学省航空宇宙技術研究所流体科学総合研究グループ室長
理 事	豊田 國昭	北海道工業大学工学部機械工学科教授
理 事	萩原 良道	京都工芸繊維大学工芸学部機械システム工学科教授
理 事	益田 重明	慶應義塾大学理工学部機械工学科教授
理 事	山田 道夫	東京大学大学院数理科学研究科教授
理 事	宮崎 武	電気通信大学電気通信学部知能機械工学科教授
監 事	大島 裕子	(株)リコー研究開発本部技術顧問
監 事	本阿弥真司	東京理科大学工学部機械工学科教授